

フィグ・ヤーパン通信

第36号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.36

発行日 2008年10月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新刊『切なる願い』DVDビデオ版

フィグ・ヤーパンでは、小冊子のビデオ版として、FIGUスイスで発売されているビデオ『切なる願い』の日本語版を発売いたします。日本語版では、オリジナルのドイツ語版に、日本語の字幕と日本人ナレーターによる吹替えを追加編集いたしました。このため、ドイツ語原音も収録されており、音声の切替でドイツ語と日本語をどちらもお聴きいただける仕様となっております。

ビデオには、美しいスイスの景色の映像が収録されています。この映像を背景に、人生や日々の生活の中で、常に心掛けておきたい大切な事柄について記された『切なる願い』の文章と朗読をお楽しみください。なお、ビデオには小冊子『切なる願い』が付録されています。



『切なる願い』DVDビデオ版
(小冊子付録)

形式 : DVDビデオ形式

収録時間 : 17分

二重音声・

日本語字幕入り

定価 : 2,000円(税込み)

重量 : 110グラム

発売 : 11月上旬

切なる願い

ビデオの発売時期は、11月上旬を予定していますが、『フィグ・ヤーパン通信』読者の皆様に予約販売いたします。発行日につきましては、決定次第、ホームページにてお知らせいたします。

自由を尊重せよ。なぜなら、それはすべての人間とすべての生命形態の権利であり、財産だからだ。

愛を尊重せよ。なぜなら、それは創造、人間、そして生命の本質だからだ。

平和を尊重せよ。なぜなら、それはすべての良い発展と限りない進化を保障するものだからだ。

調和を尊重せよ。なぜなら、そこには考え、感情、行動ならびにすべての物事の均衡が存在するからだ。

日常の喧噪や苦労や慌ただしさに急き立てられることなく、いかなる境遇にあっても常に平静を維持せよ。

平穏、平和、愛、そして自由、すなわち調和の中に見出される、すべての価値あるものを探し求めよ。

毎日ある程度の時間、静寂を求めよ。なぜなら、それは君に休養と熟慮をもたらすからだ。

⋮

『真理の杯 (Kelch der Wahrheit)』 翻訳のためのご寄付のお願い

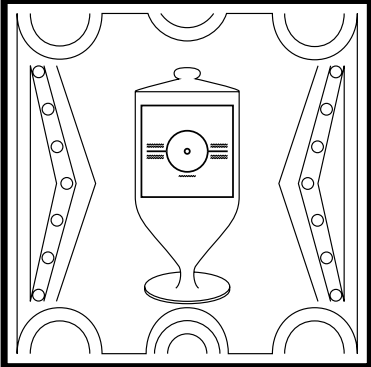
2008年2月5日、BEAM(「ビリー」・エドゥアルト・アルベルト・マイヤー)は、彼の最大で最も重要な著作を、わずか5ヶ月と16日、すなわち171日で完成させました。この著作『真理の杯』は、今後あらゆる世紀を越えて永遠に生き続け、その道は遠く宇宙にまで及ぶでしょう。私たちの地球においてもこの著作を迅速かつ効率的に広め、その効果を発揮して、これに触れた人々が自らの価値を認識できるようにしなければなりません。この著作は世代から世代へとその力が発見されて、人生のあらゆる状況で人々の友となり、同伴者となるでしょう。しかしそのためにはこの著作をできるだけ速く最重要の言語に翻訳することが必要です(もちろん他の著作もそうです)。ビリーのこの最新の著作は内容的にも語学的にも非常に高度なため、翻訳作業は信頼が置ける、非常にまじめに仕事をするプロの翻訳家に依頼しなければなりません。しかし、それはわれわれの財政能力をはるかに超えた大胆な企てです。このため私たちはすべての人々に呼びかけて、この作業の必要性和緊急性をご理解いただき、この道標となるべき著作の普及に自発的に協力し、またそれぞれの外国語への翻訳と印刷の費用についてご寄付いただけるよう努めたいと思います。多額の寄付金を期待せずに、「一滴の水も集まればグラスを満たす」のモットーで、力を合わせてこの課題を克服したいと思います。

財政的に支援して下さるすべての方、そしてまた別の形でこの著作の普及に協力して下さるすべての方に、前もって私たちからの深甚なる感謝の気持ち

を表したいと思います。このことは、2008年2月3日に行われたプターとビリーの以下に引用する対話(第459回目の会見)からも明らかです。

プター：…さて、『真理の杯』の計り知れない意味についてだが、これはミッション全体にかかわる最も重要な著作であるから、君たちはこの本ができるだけ速く、少なくとも現在地球上で有力な最重要の言語に翻訳されるように努めるべきだ。この本はできるだけ速く世界中に広める必要がある。なぜならそれが世界中に広まることは、きわめて特別の意味を持っているからだ。

ビリー：…しかしこの新しい著作『真理の杯』を翻訳するとすると、かなり厄介だ。この本はプロの翻訳家によって翻訳されねばならないが、それには非常に多額の費用が掛かり、われわれにはとても賄うことができない。そのためには豊富な資金を持った責任感のある人間をスポンサーに付ける必要があるだろう。だが、そのような責任感のある人間を見つけることはこれまた非常に難しい。なぜなら裕福な人間は、本当の真理とそれについての教え、そしてまた人間が自分自身の内に真の愛と平和、自由と調和を見出すことができ、これらすべての高い価値を地球人全体に広められるようにする教えのために尽くしたいとは思わないのが普通だからだ。むしろ地球の人間は、宗教や宗派、イデオロギーや哲学の信者であるため、多額の金を宗教やイデオロギーや哲学に、そしてまた戦争につき込む。なぜなら彼らは

	<p>Kelch der Wahrheit</p> <p>Buch der gesamten Lehre der Propheten</p>
<p>Symbol: Kelch der Wahrheit</p>	<p>Lehre der Wahrheit, Lehre des Geistes, Lehre des Lebens von Henoah, Elia, Jesaja, Jeremia, Jmmanuel, Muhammad und Billy (BEAM)</p>

それによって魂の救いや身の安全を手に入れられると信じているからだ。彼らはそうして天に行って、星屑の中に自分たちの想像で作りに出した神の足元にひれ伏し、謙虚に祈りを捧げたいと願っている。あるいは戦争を支持すれば自分たちの国でテロリストの攻撃から守られ、またそれに金をつぎ込んで利益も得られると期待しているのだ。

プター：君の言ったことは残念ながら愕然とするほど真実だ。しかしそれでも君たちはこの著作を翻訳し、普及する努力をしなければならない。

ビリー：もちろん努力はする。だが、この地球には、私利私欲を捨てて力になろうという金持ちは少ない。翻訳のために寄付をする責任感のある人間は、むしろわれわれの基幹グループと一般会員グループ、そしてわれわれのミッションと本当の真理の教えのために努力している友人や関心のある人々の間にいる。こうして少額ずつ集めると、時間が経てばかなりの額になり、いつか『真理の杯』を少なくとも英語に翻訳することができるだろう。そのためにわれわれは両方の言語を完璧にマスターし、この仕事をやれるプロの力を借りることができるだろう。が、まさにそれには支払いが必要なのだ。もちろんアラビア語と中国語に翻訳することも非常に重要だろう。日本語への翻訳は間違いなくフィグ・ヤーパンのメンバーが引き受けてくれるだろう。彼らは非常に熱心であり、これまでもいろいろな本や刊行物を翻訳してきた。だが、さしあたり最も重要な言語は英語、アラビア語、日本語、スペイン語、中国語だろう。

プター：私も概して同意見だが、『真理の杯』を真っ先に翻訳しなければならない最も重要な言語は英語だと考える。しかしアラビア語、中国語、スペイン語、日本語もなおざりにしてはならないし、それ以外の言葉も考慮に入れなければならない。君たちが努力することはわかっている。だがすべて急を要するので、それまではギドーの出来上がった本を校正し、私の望むとおりに整えなさい。

ビリー：われわれは週2回それに取り組んでいる。

少なくともアンドレアに可能な限りは。しかし作業は順調に進んでいるよ。

プター：それは喜ばしいことだ。私はぜひともこの仕事に協力する全員に感謝の気持ちを述べたい。困難なミッションに協力し、常に進歩と成果を上げられるよう全力を傾けている他のすべての人に対しても同様だ。また私は、ミッションが進捗するように君たちに可能な財政的支援をしてくれている世界中の一般会員グループのメンバー全員、友人、そしてミッションに関心のある人々にも感謝したい。しかしまた、著作やその他の刊行物を別の必要な言語に翻訳することも含め、今後引き続き、あるいは新たにミッションに肩入れし、財政的にも支援してくれるすべての地球人にも感謝する。

ビリー：その言葉はありがたい。きっと君の言葉が自分に向けられていると感じる人は皆、君に対して感謝することだろう。

プター：ミッションの真理と重要性を認識し、それに従って生きようと努力し、そしてミッションが豊かな成果を上げられるように手助けするすべての人々が感謝に値する。それがどのような種類の努力であろうとも。

ビリー：うれしい言葉だ。私も同感だ。

プター：この機会にフィグ・ヤーパンのすべてのメンバーに改めて私の特別の感謝の気持ちを伝えたい。なぜなら彼らが実行し、成就していることは、驚嘆すべきものだからだ。彼ら全員が本当に非常に偉大で有益な仕事をしており、その価値たるや見通すことができないほどだ。

ビリー：このことについても君が言ったことにまったく同感だ。実際、彼らがいかに素晴らしい人間で、何を成し遂げているか感嘆に値する。しかし同じようにわれわれの基幹グループのメンバーも挙げたい。彼らがいなかったら、ミッションが今日世界中で見られるように進捗することは不可能だったからだ。もし彼ら全員がその能力に応じて、資金的な

援助も含めて肩入れし、また私の味方になってくれなかったなら、今日すべてがどうなっていたかとも考えられない。この大きな成果について本当に彼ら全員に感謝しなければならない。しかしまた一般会員グループ、フィグ・ヤーパン、その他すべてのFIGUグループのメンバー、そしてこれまでにわれわれを財政的に支援してくれ、また自らもミッションのために尽力し、これからも続けていく世界中の友人たちも同様だ。

プター：彼ら全員にも深い感謝の言葉を伝えたい。

ビリー：ありがとう。君の言葉は、この会見記が世界中に送られたら全員に伝わるだろう。

プターとビリーの言葉がご自身に向けられたものだとお感じになり、財政的に寄与したいと思われる方は、次の口座宛にご寄付くださいますようお願いいたします。その際、備考欄には『真理の杯』と記入してください。

『真理の杯』翻訳のためのご寄付のあて先

《日本語への翻訳寄付あて先》

郵便振替

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

《英語その他の言語への翻訳寄付あて先》

Account Number: 21281.25

IBAN: CH26 8137 8000 0021 2812 5

Note/comment: «Book Translation»

(«Kelch der Wahrheit» and in general) for FIGU

Freie Interessengemeinschaft

Bank: Raiffeisenkasse Bichelsee-Turbenthal

Geschäftsstelle Turbenthal

Bahnhofstrasse 6

CH-8488 Turbenthal

BC-No.: 81378

Raiffeisen Schweiz

Raiffeisenplatz, Postfach, 9001 St. Gallen

Swift: RAIFCH22

Q&A

質問と回答

□読者の質問

「超感覚的」という概念は本来何を意味しているのですか。それは正確にどのようなものであり、どんな働きをするのですか。(前号からの続き)

R. シュトレースラー (スイス)

□ビリーの回答

この質問に対する回答はかなり広範なものになる。というのも全体を簡単に数語で片付けることはできないからだ。あなたの関心を満たすために霊の教えから教材の一部を引用しよう。そこでは次のように説明されている。(前号からの続き)

超感覚的なもの、微細物質感覚、生気力

人間の脳から放射される微細物質感覚の振動およびそのエネルギーと力は、他の人間の脳に感化するが、その距離は数千キロメートルにも及ぶ。すでに説明したように、純粋なテレパシーでは最大900,000キロメートルにも達する。このような感化が行われるのは、死や病気、不幸や恐ろしい出来事などに遭遇した時に、特定の人物に向けて想念と感情が強力に放射される場合だけに限らない。このような放射は人類全体に対して絶えず行われているので、十分な感度を備えた者が正しい周波数を受信できるならば、場合によってそこから利益を得ることもできる。ここで利益を得るというのは、例えば誰かが発明をしたり、何か特定のことを言ったり書いたりした時に、それらを世界のどこかで他の人間が

微細物質感覚によって受容し（これは集合的意識によっても可能である）、同じ発明をしたり、同じことを言ったり書いたりするということである。このような意味において成立することは、全体として同期化に基づいている。これに関して予感と体験の有意な一致ということが言われるが、これもまた同期的な出来事と呼ぶことができる。実際、人間の中にはこの他にも、意識的な瞑想の努力を重ねさえすれば活用できる多くの可能性や素質が眠っている。その幾つかは意識的か無意識的に呼び覚まされる一方、それ以外のものは利用されないまま眠っている。これらの可能性や素質は、ある人間では非常に強く現れるが、別の人間においては抑圧されるか、気づかれることすらない。同様のことは、微細物質感覚的なものを受容する可能性や素質についても言える。

粗大物質感覚を遮断して、微細物質感覚的なものの知覚をつかさどる特定の脳領域の機能をしばらく停止させると、微細物質感覚の領域に接近して、意識的に利用できるようになる。ここで明確にしておかなければならないのは、大脳特定の部位は粗大物質感覚と微細物質感覚の印象を保存するのに対し、小脳は何よりも肉体の運動能力を制御し、意識と潜在意識の間で一種の検閲を行うということである。つまり小脳は潜在意識から検閲された特定の情報だけを意識に通し、それによって意識および脳一般に、過大な負担が掛かるのを防ぐのである。このようにすることによって、一方では人間の恣意的な行動が制限される。なぜならば、小脳が潜在意識から送られた情報を加工して意識に回送する時に、検閲機能によってそのような行動を妨げるからである。その一方で、そうすることにより人間が本能を利用し、従ってまた本能的に行動できるプロセスが保証される。

重大な出来事によって微細物質感覚が出現する場合、これは正常とは呼べない過程と方法で行われる。というのも大事故や重病や強いショックなどが誘引となって、神経細胞の回路が「人工的に」作られるからである。

単純な読心術について理解しなければならないのは、これは純然とした一次テレパシーとも、より高次の二次テレパシーとも、さらには霊テレパシーと

もまったく関係なく、特に霊テレパシーは高度な意識進化においてのみ可能だということである。単純な読心術でさえ地球の人間にとっては、微細物質感覚に関する知覚能力が萎縮したため、もはや自明のことではなくなり、ごく例外的に少数の人間だけが他人の想念を単純な一次的形態で知覚できるにすぎない。この場合、単純な読心術では、想念と結びついた感情は完全になおざりにされるか、およそ知覚されない。感情も知覚できるためには、微細物質感覚による共感を必要とするからである。実際には、単純な読心術の能力が生み出されると、人間は自分に向けられた想念情報を、大きな距離を隔てて受容もしくは知覚することができる。しかしすべての人間が微細物質感覚的なものを知覚する能力を備えているわけではないので、例えば誰かが死のうとしたり、危険に瀕したり、あるいは自分自身が危険に遭遇する時に全員が予知するものではない。しかし本当は、想念を送信したり受信したりすること、従ってまた人間が発達して読心の能力を持つことは、人間の脳の特質なのである。同様のことは一次テレパシーおよび純粋な二次テレパシーについても言える。すべての人間が読心の能力を持てるわけではないのは、優勢な合理的悟性がこの能力を抑圧するように働くからである。（この場合、テレパシー形態は除く。地球の人間はまだこの純粋な能力を持てる水準にないからである。）すでに別の形で説明したように、この合理的な悟性の姿勢には自己防御も組み込まれている。自己防御は、他人の感受や想念と感情の振動が無秩序に押し入ってくるのを防ぐ。また微細物質感覚の領域を十分意のままにでき、従ってまた読心術をマスターしている場合には、必要に応じて自己防御を押さえたり、働かせたりできる。もしこの自己防御がなければ、脳はひっきりなしに他人の感受や想念と感情の刺激の大洪水に襲われ、それらを消化しきれずに、ついには発狂してしまうだろう。そうなるのを防ぐためには、地球の人間はまさに純粋な合理的悟性に向いているため、脳は進化の過程ですべてのことを編成して選別しなければならない。これについて基本的に言えるのは、これらすべてを包含した全体が、組織化されたシステムと特定の位階秩序に従って働く意識だということである。つまりこうした全体の主要な要素は意識とその

進化の状態であり、もし意識がその機能、能力および可能性に関して誤った非論理的なものに向かい、他人の感受、想念および感情の刺激や生气や微細物質感覚の振動に絶えずさらされたなら、この全体は機能を損なわれるであろう。それによって意識それ自体だけでなく、そのすべての形態、構造および全位階秩序が弱体化してしまうだろう。しかしこのようなことが起こり得ないのは、脳が進化の過程で防御システムを発達させ、それによって脳が無秩序な外的刺激や、微細物質感覚の振動から守られるからである。もしこのような防御システムがなかったなら、人間は互いに矛盾する情報という底なしの奈落に転落し、すでに言ったように発狂するだろう。

最後に、夢の働きについて述べると、夢の領域から何らかの情報が意識に上ると、微細物質感覚の世界に入ることができる。この時夢は微細物質感覚の領野に入り、微細物質感覚の能力を意識的にコントロールして利用する能力を身につけていない限り合理的悟性では知覚できない世界を、人間に開く。この夢の世界では、すべての物理的法則や空間と時間の法則も無力化され、少なくとも覚醒状態では純粋な合理的悟性の知覚には隠されたままになっている事物を、知覚し理解することができる。そして事実、人間のアイデンティティーが強固であればあるほど、その心の状態も安定しており、他の心の状態から隔離されていて、これを侵害することは事実上できない。まさにこれは、きわめて意識的に微細物質感覚の能力を身につけようとする場合の条件と

なる。というのもこの時心に凄まじい負荷が掛かるからである。つまり微細物質感覚の能力を意識的に獲得するためには、健全で強い心を必要とする。しかしこれこそ、重大な出来事によって微細物質感覚的なものを知覚する能力を身につけた人間に欠けているものである。なぜならそのような人間は、不幸にも獲得された微細物質感覚の能力によって、全体を消化できないために想念と感情が、従ってまた心が不安定になるのが普通だからである。しかしその結果、読心術や共感の能力が強まり、ついには激増して、しばしば統合失調症の症状を呈し、社会組織から隔離される。さらに付言すると、すべての重大な出来事が、その当事者が微細物質感覚による知覚能力を獲得するという結果を招くわけでないのは言うまでもない。なぜなら、そのような結果を生む本来の要素は、トラウマ的な体験や出来事それ自体ではなく、基本的に意識により想念と感情の世界を経由して形成された心の状態だからである。つまりそうして形成された心の状態が安定していればいるほど、微細物質感覚的な知覚の有害な能力が生じる危険性は少ない。これはトラウマ的な体験や出来事がどのような種類のものであろうと、まったく変わりはない。従って微細物質感覚による知覚を意識的に進んで習得しようとする場合は、意識世界全体だけでなく、想念と感情の世界、そして心も不都合のない状態にあることが不可欠である。さもないと意識に混乱を来す危険が生じるが、これは看過することも予防することもできないのである。

(おわり)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 講演会の開催予告 □

フィグ・ヤーパンでは、来年3月15日(日)に、FIGUスイスの基幹会員を招いた講演会の開催を企画しています。この講演会が実現すれば、1998年、2003年、2005年に続いて、今回で4回目の開催になります。

今回の講演会のテーマは二題を予定しています。一つは、巻頭でも取り上げた、地球の歴史上重要な予言者たちによる教えについて記した、ビリーによる最も重要な書籍の一つである『真理の杯』につい

てです。さらにもう一つのテーマとして、『連想』についてを予定しています。

詳しいプログラムにつきましては、次号フィグ・ヤーパン通信第37号(2009年1月発行予定)等で、改めてお知らせいたします。会場手配の都合のため、同封の参加申し込みはがきを11月30日までにご返信ください。また、講演会終了後に懇親会を開催いたします。全国の読者の皆様が一堂に会する貴重な機会となります。どうぞ奮ってご参加ください。な

お、ご欠席の場合には、同封の申し込み葉書をご返信いただかなくても構いませんが、フィグ・ヤーパンへのご意見、ご要望等をお聴かせくださいましたら幸いです。

日 程

開催日 2009年3月15日(日)

会 場 日本青年館会議室

東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号

電話 03(3401)0101

JR総武線 信濃町駅または

千駄ヶ谷駅より徒歩9分

参加料

講演会のみ 3,000円

講演会と懇親会 3,500円

(参加料は当日徴収いたします。)

□ これから出る本 □

フィグ・ヤーパンでは現在、『宇宙の深遠より』『アラハト・アテルザータ』『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(5)』の3冊について、平行して校正作業を進めています。また、巻頭でもご案内いたしました、ビリーによる最も重要な書籍の一つであり、翻訳の優先度が高い書籍として採り上げられている『真理の杯』を、日本語に翻訳するための準備を開始しています。これらの他、本誌『フィグ・ヤーパン通信』にて連載された記事が収録されている小冊子類につきましても、順次出版していく予定です。

今後複数の書籍について出版予定があり、さらに『真理の杯』の翻訳作業を開始するために、十分な資金を確保するため、フィグ・ヤーパンでは、読者の皆様からのご支援を随時受け付けています。翻訳出版のためにご支援いただいた分は、そのすべてが翻訳出版に使用されます。フィグ・ヤーパンの翻訳出版活動への読者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

□ 読者訪問日を開設しています □

フィグ・ヤーパンでは、読者の皆様とフィグ・ヤーパンのスタッフが対話する機会をつくるため、「読

者訪問日」を開設しています。フィグの活動や書籍の内容など、フィグに関することであれば、お話になりたいことは読者の皆様に自由にお決めいただけます。会談は、フィグ・ヤーパン事務所(奇数月の第3日曜日のみ)または、都合の良い場所にて実施します。ご希望の方は、住所、氏名、連絡先電話番号を添えて、フィグ・ヤーパン事務所まで郵送またはFAXにてお申し込みください。その際に、希望の場所とお話になりたいことについてもお知らせください。

なお、読者訪問日はすべて無料で実施され、フィグ・ヤーパンによる書籍の販売等を含む勧誘行為等を目的としたものではありません。また、フィグ・ヤーパンでは、個人の悩み事相談等は行っておりません。申し込みいただいた内容によっては、ご希望に添えないことがあります。

□ 瞑想用携帯ピラミッドは販売中です □

フィグ・ヤーパンでは、瞑想用の携帯ピラミッドを販売しています。このピラミッドは、FIGUスイスの許可を得て、フィグ・ヤーパンが国内で製造しているものです。この携帯ピラミッドは、すべて手作りで生産されているため、量産することができませんが、現在十分な在庫がございますので、購入をご検討されている読者の皆様は、どうぞこの機会にお求めください。なお、携帯ピラミッドをこれからご使用になれる方は、FIGUスイスでの瞑想の様子や、基幹会員による瞑想についての解説を含んだ、フィグ・ヤーパン取材による最新のDVDビデオ『2007 FIGUスイスセンター訪問』を併せてお求めいただくことをお勧めいたします。



瞑想用携帯ピラミッド

銅製 高さ23cm・幅15cm

重量: 450g

平和瞑想に関するDVD

および取扱説明書付き

定価: 28,000円(送料・

税込み)

出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)
価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)
価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)
- 心
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- 瞑想入門
価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)
- わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)
価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)
- 生命の哲学
価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声
価格 各 1,000 円 (税込)
83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 霊と肉体における生
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- ビリーの少年時代の著作
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 地球に平和あれ
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 2007 FIGU スイスセンター訪問 (DVD)
価格 3,000 円 (税込 送料別 85 グラム)
- 『切なる願い』DVD ビデオ版 **新刊!**
価格 2,000 円 (税込 送料別 110 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 36 号 (無料)

発行日 2008 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2008 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.